

# 公衆衛生看護学における学生の主体的な学びを重視した健康教育実習プログラムの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲里, 良子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003362">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003362</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 24 号

公衆衛生看護学における学生の主体的な学びを重視した健康教育実習プログラムの開発

(Development Health Education Practice Program focus on Student Active Learning in Public Health Nursing)

仲里 良子 (なかざと りょうこ)

博士 (看護学)

### 論文内容の要旨

**【目的】** 保健師課程の学生が保健師として求められている実践能力を養うことができる健康教育実習を展開するためのプログラムを開発すること

**【方法】** 研究 1 は、公衆衛生看護学健康教育実習を行った学生 10 名に半構成的インタビューをし、グラウンデッド・セオリー・アプローチで学習プロセスを明らかにした。

研究 2 は、研究 1 の学習プロセスの分析から、学びの深まりに必要な要素の仮説を立て、グループ学習、プロジェクト・ベースド・ラーニング、ポートフォリオを組み合わせ、ICE ルーブリックでアセスメントするプログラムを開発し、学生 3 名に実施した。その効果は、学生へのインタビューとレポートからの質的データと3種類の尺度による量的データ(保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標、主体的授業尺度、一般セルフエフィカシー尺度)の実習前後比較と指導教員へのインタビューから評価した。

**【結果/考察】** 研究 1: 9 つのカテゴリーが抽出された。**【対象者の特性と健康課題を見抜く】**ために入り入れたグループによる学習が、その後の学びのプロセスに影響している事が全学生のインタビューから明らかになった。しかし**【対象者の役に立ちたい気持ちが育つ】**のカテゴリーを経た学生は一部で、このカテゴリーを経た学生のみが、実習への主体的な取り組みが見られた。よってこの点を意図的に促進する仕組みが必要と考えられた。更に**【実習での学びを今後の看護に活かすイメージ】**に至るには省察が重要であることが明らかになった。

研究 2: 学生は 9 つのカテゴリー全てを経験した。卒業時の到達目標では 2 名の目標到達度が上昇し、主体的授業尺度、一般セルフエフィカシー尺度では全員が実習後に、より主体的な学習態度、より強い自己効力感を獲得しており、本プログラムが学生の学びの深まりに効果を持つことが明らかになった。しかし、指導教員は、本プログラムによる学習効果を肯定的に評価している一方で、学習パラダイムに基づく指導に困惑や不安の気持ちを抱いていた。

**【結論】** 今回開発したプログラムは、学生の主体的な学習への取り組みに寄与し、実践能力を高め、獲得した能力を認識し自己効力感を高める可能性がある事が示唆された。一方、指導教員には、アクティブラーニングを指導するためのカリキュラムを含めた組織的な取り組みや教員個人の意識や知識、技術を向上させるFD研修や支援が必要であることが示唆された。